

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 弥山東陵①～L千賀、中塚、入江、 弥山東陵②～L山蔦、西口、仲島
弥山西陵②～L矢古宇、湊 弥山西陵(取付きまで) ～服部
8号尾根～L大川、西 7号尾根 L黒岩、後藤
夏山登山道～保木本、大石 以上15名

2. 山城/ルート 大山北壁 ～ 弥山東陵、弥山西陵、8号尾根、7号尾根、夏山登山道

3. 交通手段 車

4. 行動記録

<入山日 2022年2月26日>

2月25日夜神戸出発→26日未明 大山駐車場着

第1日 2月27日 (弥山東陵班)

5:15 大山駐車場出発→7:00 元谷小屋発→8:30 取付→12:30 登攀終了
弥山山頂 →元谷經由下山→15:15 大山駐車場着→帰神

(7号尾根班)

5:30 大山駐車場出発→5:45 登山口→5:53 大神山神社奥宮→6:55 元谷小
屋発→11:13 大山頂上避難小屋→11:26 弥山山頂 13:09 六号避難小屋→
14:17 大山神社奥宮→14:19 登山口→大山駐車場→帰神

(8号尾根班)

6:10 大山駐車場出発→7:15 元谷小屋→7:30 元谷小屋発→8:45 取付き
→12:00 登攀終了 →12:30 弥山頂上小屋 13:00 発→15:00 大山駐
車場着 → やまびこ荘 キャンピングカー

(弥山西陵班)

6:50 大山駐車場出発→8:00 元谷小屋発→9:00 取付 (Hさん、この
時点でハーネスが無いことが判明し、引き返す) →12:30 登攀終
了 →12:45 弥山頂上小屋 13:15 発→15:30 大山駐車場着→キャン
ピングカー

(夏山登山道班)

9合目まで登り、最近起った遭難の犠牲者の慰霊をし、下山。
→ やまびこ荘

第2日 2月28日 5:00 起床 → 大荒れ情報が出ていたため 登山中止し 帰神

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか?

弥山西陵①班 ザック、アイゼンの忘れあり、2名夏山登山道に変更。西陵取付きでハーネスの忘れに気が付き (キャンピングカーに落としていた) 1名引き返した。

b) 事故に繋がりそうな要因 (ヒヤリハット) が発生したか?

発生した場合、具体的に記す

なし

c)パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

6. その他、感想・ルートに関する情報・気がついた事など記す

(弥山東陵班 山蔦さん)

元谷小屋上部より美しい雪面にラインをひくことができました。技術的には難しい箇所は無く、捨て縄があれば所々にある灌木で撤退も容易。初級者同士の本チャン訓練に程良いレベルと感じました。登攀はないものの、緩い雪壁、適度なナイフリッジ、弥山の頂上に突き上げて見る剣ヶ峰の美しさは息を呑むばかりでした。来年は滝沢リッジと縦走だ！

(弥山東陵 西口さん)

お疲れ様でした。北壁に登れたのが嬉しいです！！大川さん企画ありがとうございました。一緒に登って下さった山蔦さん、仲島さん、ありがとうございました。

(弥山西陵班 服部さん)

標高 1250m 辺りで、装備装着準備中にハーネスが無いことに気が付き下山。ハーネスはキャンピングカー後部ドア付近にありました。皆様お騒がせしました。来年は練習をつんで西陵 or 東陵へ行きたいと思います。

(弥山西陵 矢古宇さん)

弥山西稜、やっと登れました。

雪が多く、トレースもあり、フリーで登っている人もおおく、登りやすかったかもしれませんが、スノーバーやピッケルで支点にしたのはいい経験でした。

また、ロープを出すが出さないかの判断、トランシーバーが通じなくなったらどうするか、そして、自分の体力不足、等々、課題がありました。

今後に繋げていきたいと思います。

なお、服部さんのハーネス忘れ、簡易ハーネスで対応可能かの判断ができず、下山して貰ったのは心残りでした。

(7号尾根 黒岩さん)

元谷避難小屋までの道中、バリエーションルート初めてで頼りのない私に入江さんが、8合尾根には絶対迷い込むなど助言してくれた。実際登ってみると、入江さんの助言を聞いた後では8合尾根側には大きな岩があり、ロープなしでは登れないと思うが、7合尾根へ行く道と8合尾根へ行く道は途中まで一緒なので、8合尾根に登る人のトレースをたどってしまい、8合尾根に迷い込んでしまうこともあると思った。

標高 1150メートル付近の地点に到達するため避難小屋の右から行くか左から行くか迷ったが、どちらからでも行ける。夏道登山道とは違い、景色が格段に綺麗で他のバリエーションルートに登る人たちを見ることができてよかった。8合尾根に登る別の登山者3名が途中までラッセルしてくれていたが、8合尾根への分かれ道よりちょっと前の地点からトレースがなくなった(大川さん、西さんが8合尾根側に方向転換した地点より前の地点で先行パーティーは8合尾根側に方向転換している。)ため、その地点から膝から太ももが埋まるラッセルになった。雪のふきだまり部分では腰ほどのラッセルになった。足腰の強い、後藤さんが私が疲れるたびにラッセルを代わってくれた。途中標高1400メートル付近で、岩があり、最初は右側にトラバースと考えたが、急登でのトラバースはこわいなあと

思い、雪がたくさんあるようだったので、直登可能かと思ったが、下に木があったことや、雪がもろもろで崩れやすかったことから、けりこんで足場を作ると、どんどん雪がなくなってしまい、停滞した。結局、後藤さんに右側にトラバースしてもらった。その岩をまいた後、少し経つと風が強くなり、急登にもなっていたことから、ピッケルは十分ささきっており落ちることはないものの、風の強さに恐怖を感じた。後藤さんにほとんどラッセルをしてもらったかと思う。

夏山登山道に合流した時には、私は初めて受けた大山の強風とバリエーションルートの急登のこわさでフラフラになっていた。なんとか頂上避難小屋につき、一休みすると落ち着いた。

初めてのバリエーションルートで怖いところもありましたが、今となっては私でもバリエーションルートを行けたのだという充実感ともう一度あの絶景をみたいという気持ちでいっぱいです。このような機会をいただいた、神戸労山と後藤さんに感謝しています。来年も大山に行けたらと思います。

(8号尾根 西さん)

今回は、出発間際にいろんな変更があり、大変だった。そして当日も忘れ物でハプニング続出。人数が多いと大変だなあと考えた。

今回は八号尾根デビュー。中原さんの話によると、結構大変らしい。記録をみて当日に備えたが、不安で一杯。取り付きまでは、先行の3人パーティーがつけてくれたトレースを使わせてもらった。取り付きに着くと先行パーティーは、左側を巻き尾根に乗るルートをとっていた。1ピッチ目、リード大川さんは先行パーティーとは違う岩の間のルンゼルートをとった。30mほど登ったところで、ぴたりとロープの動きがとまった。そして時々上から雪が落ちてきた。大川さんは、結局前進できず、一旦降り、先行パーティーのルートを追うことに。ロープをつかっただのは、ここと、ナイフリッジの箇所、最後の岩場の3ピッチくらい。先行パーティーのトレースのおかげで快適な8号尾根になった。頂上から真っ白な稜線を見た時は、感動した。また、弥山東陵、西陵を登ったパーティーとも頂上で合流でき、感動！下山途中大山北壁を眺め、また登りたいと思う。午前中は、ガスがかかっていた稜線がくっきりみえ、ラッキーだった。初めて行くルートは、緊張するが、やっぱりわくわくする。雄大な大山北壁は、素晴らしい。リーダーの大川さんありがとうございました。

(8号尾根 大川)

弥山東陵班、7号尾根班に1時間弱遅れて出発。7号尾根取付きのところで、黒岩さん後藤さんのパーティーに出会い挨拶をして、私たちは8号尾根の取付きに向かった。8号尾根の最初に岩が見えるところからザイルを連結してスタート。先行パーティーは最初正面突破をしようとしたが、ラッセルが厳しく左の傾斜の緩い斜面から巻く方向に変更した。私は見た目突破できそうだったので、正面を直登したが、段々傾斜がきつくなり、薄い雪の下から垂壁の岩が現れた。直登が難しかったので右の方にトラバースして、尾根に上ることを目指したが、傾斜がきつくナイフリッジで雪が柔らかく手足の雪が固まらず残念。慎重に下降し、先行パーティーがトレースを付けていた左側に回り込み尾根上に出た。その後、しばらく快適な雪稜が続きコンテで順調に進んだ。後半ナイフリッジが現われる。岩の上にキノコのように雪が付着しており、確保しながら慎重に通過。その後30mの三角形の岩が現われた。その岩を確保して慎重に正面から突破。後はコンテで12時に8合目の一般道と出会い、登攀終了。頂上手前の雪原は風速20m程度の強風で厳しい状況だったが、頂上小屋を目指す。頂上小屋で休憩した後小屋を出ると、弥山東陵、西稜のパーティーに

出会い、皆で記念撮影した。皆さん登頂おめでとうございます。感動セレブレーション!
(桑田佳祐 「クワイア」から)。来年もここに来ましょう。

報告者 大川 肇 2022年3月1日